

千代田区1位変わらず

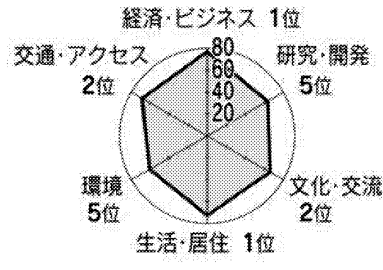
東京23区 都市特性ランキング

森ビルのシンクタンク、森記念財団都市戦略研究所（東京・港）が10日発表した「日本の都市特性評価2019」の東京23区版で、千代田区が2年連続で首位となった。企業が集積するなど経済・ビジネスの項目が高得点だったことに加え、居住環境の改善や環境に対する区民の満足度も上昇し、幅広い分野で評価を高めた。

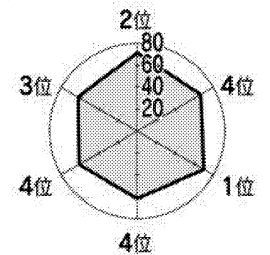
居住環境など満足度上昇

上位3区の特徴

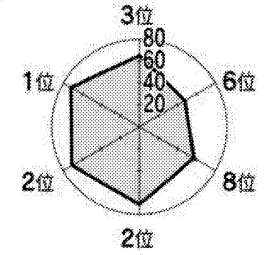
千代田区



港区



中央区



順位	区	スコア
1(1)	千代田	1410.4
2(2)	港	1352.7
3(3)	中央	1247.9
4(4)	新宿	1160.2
5(5)	渋谷	1138.7
6(6)	文京	1111.6
7(10)	江東	1000.2
8(9)	品川	993.9
9(7)	台東	985.2
10(8)	目黒	962.5

(注)カッコは18年調査

民間調べ



EV充電機の整備が進み、環境面での高評価につながった東京千代田区

滞在した外国人の訪問先 大阪や京都 上位に 「ゴールデンルート」人気

順位	自治体	人数	主な施設
1	千葉県成田市	530	成田空港
2	大阪市	222	USJ
3	京都市	217	寺社
4	千葉県浦安市	179	東京ディズニーリゾート
5	横浜市	122	みなとみらい21地区
6	神奈川県箱根町	88	温泉
7	山梨県富士河口湖町	85	富士山

(注)18年の1年間。NTTドコモの携帯電話情報から分析。人数は単位万人

NTTドコモの携帯電話ネットワークの位置情報をもとに、約900万台の携帯の動向をまとめ、陸・九州などの地方を回った。4位以下は東京ディズニーリゾートがある千葉県浦安市、みなどみらい21地区などがある横浜市、温泉や美術館の神奈川県箱根町、富士山観光の山梨県富士河口湖町など、首都圏の観光名所が名を連ねた。23区からの移動の53%は関東地方が占めた。日本全体が活力を高めるには、限られた都市に訪日客が滞在するのでは

森記念財団が発表した「日本の都市特性評価2019」では、訪日外国人が都市間をどのように移動したかもとめた。東京23区に滞在した外国人が訪れた都市では、成田空港のある千葉県成田市が首位で、大阪市が2位となった。3位は京都市となり、東京、大阪の代表的な都市を回る「ゴールデンルート」を旅行する訪日客が多いことが裏付けられた。

が、5位に上昇した。電気自動車（EV）の充電スタンドが充実していることが寄与した。2位は港区、3位は中央区と、都心3区が18年と同じく高評価だった。千代田区同様、EVスタンドの充実で環境分野でのスコアが高まった。また、3区が共通しているのは生活・居住の分野で高得点を出している点だ。コンビニエンス再生可能エネルギーの自給率が1位になり、水辺の充実の高さもあり、環境分野が23区中で1位となった。新規のオフィス供給面積でも高い評価を得るなど、ビジネス分野でも強みを見せた。

調査をまとめた市川宏雄・明治大名学教授は「大都市間の移動が多い一方、地方都市との移動が少ないとして「地方都市が魅力を発揮できているかが課題。東京や大阪を発着点にして地方都市に行ってもらおうような施策が必要だ」と指摘した。